

上越市第 7 次総合計画 策定に向けた 「グループインタビュー集」



令和 4 年 5 月

上越市企画政策部企画政策課

目次

1 はじめに

(1) 目的	1
(2) インタビュー団体	1
(3) 実施時期	1

2 団体インタビュー内容

(1) NPO 法人木と遊ぶ研究所	2
(2) NPO 法人くびき野 NPO サポートセンター	3
(3) NPO 法人中郷区まちづくり振興会	4
(4) 春日山城跡保存整備促進協議会	5
(5) (公社)上越観光コンベンション協会	6
(6) 桜プロジェクト J	7
(7) 上越市心身障害者福祉団体連合会	8
(8) 上越市総合型地域スポーツクラブネットワーク	9
(9) 上越市地域青少年育成会議協議会	10
(10) 上越市防災士会	11
(11) 上越商工会議所青年部	12
(12) 上越市老人クラブ連合会	13
(13) 上越地域農業者グループひかり	14
(14) 上越やまざと暮らし応援団	15
(15) 上越ワーキングネットワーク	16
(16) 上越若者みらい会議	17
(17) 名立まちづくり協議会	18
(18) 星の清里協同組合	19
(19) 南本町三丁目町内会(景観づくりの会)	20
(20) ゆきぐに森林組合、不動生産森林組合	21

1 はじめに

(1)目的

上越市第7次総合計画の策定に向け、各団体の方々から上越市の強みや弱み、まちの姿などに関して、インタビュー形式で意見を集め、計画策定の資料とするものです。

(2)インタビュー団体

No.	団体名(五十音順)
(1)	NPO 法人木と遊ぶ研究所
(2)	NPO 法人くびき野 NPO サポートセンター
(3)	NPO 法人中郷区まちづくり振興会
(4)	春日山城跡保存整備促進協議会
(5)	(公社)上越観光コンベンション協会
(6)	桜プロジェクト J
(7)	上越市心身障害者福祉団体連合会
(8)	上越市総合型地域スポーツクラブネットワーク
(9)	上越市地域青少年育成会議協議会
(10)	上越市防災士会
(11)	上越商工会議所青年部
(12)	上越市老人クラブ連合会
(13)	上越地域農業者グループひかり
(14)	上越やまざと暮らし応援団
(15)	上越ワーキングネットワーク
(16)	上越若者みらい会議
(17)	名立まちづくり協議会
(18)	星の清里協同組合
(19)	南本町三丁目町内会(景観づくりの会)
(20)	ゆきぐに森林組合、不動生産森林組合

(3)実施時期

令和4年3月から4月まで

2 団体インタビュー内容

以下の項目をお聞きしました。

- 上越市の強み（自慢できる点、満足している点など）は何だと思いますか。
- 上越市の弱み（課題や不安な点）は何だと思いますか。
- 今後、上越市は、どんなまちになっていればいいと思いますか。
- 上越市を魅力的なまちにするために必要な取組は何だと思いますか。

各団体のインタビュー記事は次ページ以降をご覧ください。

■上越市の強み（自慢できる点、満足している点など）は何だと思いますか。

☀ 暮らしの中で自然を感じることができる

田畑、海、山、雪など自然が身近で、日常の暮らしの中にそれを感じやすいのが強みだと思います。

また、くわどり市民の森や地球環境学校などの自然とのつながりを学習できる環境が整っていることが、とても良いところだと感じています。

☀ 交通の要衝となっている

高速道路や新幹線など広域交通網が整っており、地理的にもとても便利なまちだと感じています。

市内からは遠方へ移動しやすく、逆に市外の人たちにとっては訪れやすい場所だと感じています。

☀ 子育てしやすく、安心して暮らせる地域

保育園や公園などの子育て環境が整っているため、子育てがしやすいです。また、大災害が少ないと感じており、安心して暮らせる地域だと思います。

■上越市の弱み（課題や不安な点）は何だと思いますか。

☁ 行動に移せていない

近年では、持続可能な開発目標である「SDGs」という言葉が普及し、より環境への関心が高まっていると感じていますが、具体的に何をどうしたらよいかわからない人が多く、行動につながっていないことが課題だと考えています。

■今後、上越市は、どんなまちになっていればいいと思いますか。

🏠 地元に戻ってくる人が多いまち

自然や食をはじめ、様々な面で恵まれたまちであると感じています。市民にとっての「当たり前」を魅力として磨き、若者が進学等で市外に出ても、将来は地元に戻って来る人が多くなっているといいなと思います。



（左：謙信 KIDS プロジェクト「木の楽校」の様子）

（右：夏休みの「木工お助け隊」の様子）

🏠 自然を感じることができるまち

市内の歴史ある樹木等を大切に保存することで、中山間地域だけでなく、街中でも自然を感じることができる、市民が誇りを持ち自慢したくなるような景観や街並みが形成されていたらいいなと思います。

■上越市を魅力的なまちにするために必要な取組は何だと思いますか。

🕒 きっかけづくりを増やす

小学校や子供会の活動などを通じて、子どもたちが市内にある豊かな自然環境とのつながりを考えるきっかけとなる活動を増やしていきたいと考えています。

活動を通じ、自然と触れ合い、暮らしの中でどのように自然と関わっているかに気づき、実際に環境保全活動に携わる市民が一人でも増えたらいいなと思っています。

行政には、こういった市民活動が生業として持続できるように支援していただけたらと感じています。

🕒 公民館をいかした社会教育を推進する

環境保全活動をはじめとする市民活動を広げていくため、市民にとって、もっとも身近な学びの場となる公民館機能がますます重要になってくると思います。

情報発信をはじめ、社会教育のきっかけとなる場の提供など、市民が市民活動に参加しやすい環境づくりに取り組んでいく必要があると思います。

■上越市の強み（自慢できる点、満足している点など）は何だと思いますか。



市民団体による活動が活発である

上越市には多種多様な分野で活躍している市民団体や NPO 法人が多く、中には全国から注目されている団体もあります。また、他の地域に比べ、活動期間が長く、歴史ある団体が多いのも特徴です。

当サポートセンターには、日ごろから、NPO 法人設立や運営に関する相談が多く、市民活動が活発なまちだと思います。



支え合いの文化がある

市民団体の活動を大企業だけで支援するのではなく、市民や地元中小企業が集まり、活動を支援している傾向が強いと感じています。

当サポートセンターでは、フードバンク活動を行っています。想定以上に多くの地域の方からお米を寄付していただいたことがありました。

上越市は、このような支え合いの文化が根付いていると感じています。

■上越市の弱み（課題や不安な点）は何だと思いますか。



若い世代の市民団体数が少ない

市民団体の数は多いものの、世代交代が進まず、近年では、若者が中心となった団体の設立が少なくなっています。

若い世代の団体活動が活発になると、町内会や既存の市民団体と連携するなど、更なる市民活動の広がりが期待できるのではないかと考えています。



地域資源を有効に活用できていない

交通の要衝であり、歴史的な観光資源、豊かな自然、海や山をいかしたレジャースポットなどの魅力的な地域資源がたくさんあるものの、有効に活用できていないと感じています。今ある地域の強みを有効活用していく必要があると思います。



（市民活動団体交流会の様子）

■今後、上越市は、どんなまちになってほしいと思いますか。



活力ある元気なまち

学生や若者が多く、市民活動も活発になっている、活力ある元気なまちになっているとよいと思います。



上越市に残りたい、戻ってきたいと思えるまち

市外に上越市の魅力を PR することも重要ですが、市内在住の若者にアプローチしていくことで、上越市に残りたい、戻ってきたいと思ってもらえるようなまちづくりができればいいと感じています。

■上越市を魅力的なまちにするために必要な取組は何だと思いますか。



協働の推進と若者のプレーヤーを発掘

現在、行政と市民団体等において、それぞれの立場や役割を意識しすぎて、十分に連携がとれていないと感じます。

協働という意味で、同じ位置から同じ方向性を向いて、一緒に取り組んでいければよいと感じています。

また、当団体では今後、県域で子ども食堂や居場所の支援も展開していきたいと考えています。その過程の中で、若者世代とのネットワークを広げ、まちづくりの若者のプレーヤーを発掘し、熱意を持った人を支援していきたいと考えています。

行政には、情報発信や若者が市民活動に参加しやすい環境づくりの推進を期待しています。

■上越市の強み（自慢できる点、満足している点など）は何だと思いますか。

☀️ 地域、企業、行政の連携がとれている

当団体が実施する活動に、地元企業や総合事務所の職員が一地域住民として主体的に活動へ参加しており、地域、企業、行政の連携がうまくとれているところが地域の強みだと感じています。

☀️ 災害が少ない地域である

大きな災害がなく、暮らしやすいまちだと感じています。地域的にも、降雪量が多いものの、除雪体制が整っていることから、冬でも安心して生活することができます。

■上越市の弱み（課題や不安な点）は何だと思いますか。

☁️ 地域を担う若者世代の減少

小中学校の入学人数が年々減ってきており、これからの地域を担う若者世代の人口減少が進んでいます。

また、地域内に一定数の若者はいるものの、まちづくり活動に参加する若者は多いとは言えません。

今後、どのようにして若者を発掘し、活動に参加してもらえるように工夫するかが課題だと考えています。

☁️ 地域資源を生かしきれていない

恵まれた自然環境や歴史的名所など様々な地域資源がありますが、十分に生かせていないと感じています。

中郷区では、近年、発想を転換して、「^{こくせつ}克雪」を「^{らく}楽雪」ととらえて、農泊やスノーモービルなど新たな取組をする人が出てきており、地域もその活動を応援しています。

このように今後は、柔軟な発想をもち、地域資源を積極的に活用していくべきだと感じています。



（左：中郷区まちづくり振興会の皆様）

（右：トレッキングの様子）

■今後、上越市は、どんなまちになっていけばいいと思いますか。

🗺️ 助け合いと思いやりで笑顔あふれるまち

地域を支える上では「人の力」が重要になってくると考えています。高齢化の進行により、自助だけで生活をしていくことが難しい状況となる中、地域コミュニティ内で隣の人を気遣えるような、助け合いと思いやりで笑顔があふれる地域になっていたらいいなと思います。

■上越市を魅力的なまちにするために必要な取組は何だと思いますか。

💡 地域のリーダーを育成する

地域の担い手となるリーダーの育成や若手が受け入れられる環境を整える必要があると考えています。当団体では、リーダーとなりうる若者世代がやりたいことが実現できるよう、まちづくり活動に参加しやすい環境づくりに継続して取り組んでいきたいと思っています。

また、行政には、まちづくり活動に対する支援や人材の発掘・育成に向けた環境づくりに力を入れてほしいと思います。

💡 持続可能なまちづくりの体制を整える

各団体が地域課題の解決に向け、それぞれが役割を持ち、自立・連携することで、持続可能な地域づくりができるものと考えています。

今後は、地域、企業、行政との横のつながりをいかに、豪雪への対応や生活における交通ネットワークなどの地域課題にも取り組める体制づくりを進めて行きたいと考えています。

■上越市の強み（自慢できる点、満足している点など）は何だと思いますか。

☀ 全国に誇れる財産がある

高田平野の恵みに加え、広域合併により市域内で山や海の幸を地産地消でき、産業や都市機能が平均的に備わった「なんでもある」豊かな土地だと感じています。先人から紡がれた暮らしの豊かさは、人々の温かみにつながっています。戦国武将の上杉謙信、現代社会の礎を築いた前島密などの偉人を含め、歴史文化は全国に誇れる財産だと思います。

☀ 人・モノが行き来する立地

越後国府がおかれた上越は、高速道路、港、新幹線が整備され、どの方面にもアクセスしやすい立地で、人の移動・物流で優位性があります。また、上越教育大学や自衛隊駐屯地等の立地は、若い人がまちに入ってくる要素となっています。

■上越市の弱み（課題や不安な点）は何だと思いますか。

☁ 財産をいかしきれていない

なんでもあるが故に、市民が地域のことをよく知っていないと感じています。そのため、上越市の魅力や特徴をつかみづらく、財産を十分にいかしきれていないように思います。

☁ 交流人口が少ない

道路網、鉄道網は整っていますが、実際に上越を訪れる人は少ないように思います。他の観光地に比べ、分かりやすさやインパクトがあるものが不足していて、各種会議や大会の開催も少なく、アクセスの良さをいかせていないと感じています。

■今後、上越市は、どんなまちになってほしいと思いますか。

👤 若い人が地域に愛着を感じ、定着できるまち
春日区は転入者が多く、地域のまとまりを作るこ



（春日山城跡で春日小学校児童との松葉かきの様子）

とが課題となっており、地域として春日山の歴史文化の継承をテーマに小中学校と連携して子どもたちに関わり、その保護者世代との関係づくりを進めています。地域が次の世代のために何ができるかといった視点を持ち、若い人が地域に愛着を感じ、さらに定着できるまちになってほしいです。

👤 訪れた人が「来てよかった」と感じられるまち

上越市の強みを磨き上げ魅力が高まれば、市内外の人の流れを取り込むことができると思います。上越に来たからこそ味わえることを明確にして、訪れた人から「来てよかった」と感じてもらえるまちになってほしいです。

■上越市を魅力的なまちにするために必要な取組は何だと思いますか。

🕒 話題性があり、まちの変化が見える取組

地域の団体と行政が共に夢を描き、強みをいかしきる発想で、全国に先駆けた話題性のある取組を実行していくことが必要だと思います。

また、総合計画のなかで、地域の人が「今、やるべきこと」が明確に分かり、取組の成果を感じることができれば、地域の人も前向きにまちづくりを取り組めると思います。

🕒 「義の心」をつなぐ取組

今後も歴史ある春日山を受け継いでいくために小中学校、大学と連携した取組を継続し、新たに高校にも連携を広げ、この地域に暮らす次の世代に謙信公の「義の心」を伝えていきたいです。

■上越市の強み（自慢できる点、満足している点など）は何だと思いますか。



たくさん魅力がある

春は観桜会、夏は観蓮会、秋は小林古径記念美術館庭園での紅葉のライトアップ、冬はレルヒ祭と、四季折々に表情を変えた催しがあるほか、北陸新幹線が開業し、近年では、うみがたり、謙信公武道館、ジムリーナと、集客力のある施設が増え、たくさんの魅力があるまちと感じています。



観光振興を図るマインドがある

メイド・イン上越として認証された特産品をはじめ、雪むろ酒かすラーメン、上越市出身で発酵学の父である坂口謹一郎にちなんだ「さかきん鍋」など、名物を生み出し、観光の振興を図ろうとするマインドは自慢できるところだと感じています。

■上越市の弱み（課題や不安な点）は何だと思いますか。



若者に向けた情報発信が弱い

地元の名物のほか、上杉謙信など全国的に知名度がある地域資源はありますが、情報発信力が弱く、若者にその魅力が十分に届いていないと感じています。

また、交通網の利便性が良い反面、日帰りで観光ができるため、市内に滞在してもらえるような観光コンテンツを磨いていく必要があると感じています。



戻ってくる若者が少ない

地元愛を持っている若者は多いと感じていますが、進学で一度市外に出てしまうと、市内における就職活動のしづらさからか、市内に戻ってくる若者が少ないと感じています。

■今後、上越市は、どんなまちになっていけばいいと思いますか。



（四季折々のイベントの風景や準備の様子）



市民一人一人が地域に愛着をもったまち

「上越市は何にもない」ではなく、この地を訪れた人などに、市民一人一人が自信をもって、まちの好きなところや魅力を自慢しているようになってほしいと思います。

■上越市を魅力的なまちにするために必要な取組は何だと思いますか。



継続した情報発信

当協会では、若者の情報収集ツールとなっている Instagram をはじめとした SNS を活用した情報発信に力を入れています。コロナ禍の収束を見据え、継続的に情報発信することで、認知度を高め、旅行先の候補地として選ばれるよう取り組んでいきたいと考えています。

また、宿泊、飲食、交通事業者など、幅広い分野の方々とのネットワークを強化し、魅力的な観光地づくりに取り組んでいきたいと考えています。

行政からは、交流人口の拡大に向け、方向性を示し、市民全体を巻き込み、市民や地域が一丸となって観光を推進できる雰囲気を醸成してほしいです。



魅力をいかしたまちづくり

高田地区では雁木町家をリノベーションして、これまでにない雇用の場などが生まれています。こうした地元の魅力をいかした環境を整えていくことで、市外に転出した若者も戻ってきやすくなると思います。

■上越市の強み（自慢できる点、満足している点など）は何だと思いますか。

☀ 桜を通して、人の輪の広がりがある

市民と行政の協働による桜の保全活動を通じて、整備された公園に誇りを感じています。また、近年では市内の他地区における桜保全活動団体と交流するなど、「桜」を通じて、人が集い、交流が生まれ、人の輪が広がりを見せています。

☀ 山・海・川などの自然環境が充実している

身近すぎて気づきにくいですが、上越市は山・海・川などの豊かな自然環境が充実し、全てがそろった市町村は全国的にも珍しいと感じています。また、豊かな自然による風土から生まれる人情により、住みやすいまちだなと感じています。

■上越市の弱み（課題や不安な点）は何だと思いますか。

☁ 少子高齢化が進んでいる

上越市内では、人口減少・少子高齢化が進み、団体内においても、活動メンバーの高齢化が進んでおり、高校生や大学生など若い世代にも積極的に活動に参画してほしいと思っています。

☁ 誇れる観光資源は多いが、発信が不十分

高田城址公園を始め、市内には歴史・文化・食などの分野で誇れる地域資源がたくさんあります。一方で、それらの魅力の発信がうまくできていないため、大都市圏からの関心度は高いとは言えないのではないかと感じています。

■今後、上越市は、どんなまちになってほしいと思いますか。

🏡 交流が生まれ、賑わいのあるまち

春日山城跡・福島城跡・高田城址公園のような城跡や様々な地域資源を中心に、人々が集い、交流が生まれ、賑わいのあるまちになってほしいです。



（桜保全活動後の記念写真撮影の様子）

🏡 豊かな自然をいかしたまち

他市町村に負けないように、上越ならではの魅力を高めて、身近にある桜や山・海・川などの自然をいかしたまちになってほしいです。

■上越市を魅力的なまちにするために必要な取組は何だと思いますか。

💡 共にまちを創る

市民団体と行政が協働し、自分ごととして桜の保全活動を行うことにより、高田城址公園の桜という地域資源を守ると同時に、魅力を磨いています。今後も肩ひじ張らずに「やろっさ」を合言葉に市民と行政が連携し、上越の誇れる桜名所の1つである高田城址公園を保全していきたいです。

こうした活動の持続や広がりには、市民団体だけでは難しく、行政には、市民団体への支援のほか、団体活動がしやすい環境づくりや市民を巻き込んでいく仕掛けづくりを積極的に展開してほしいです。

💡 市内の桜保全活動団体との連携強化

上越市内の桜保全活動団体と連携し、活動の助け合いを引き続きしていきたいです。また、桜は開花時期が地域で異なるため、「桜の回廊」のような観光スポットを増やしていけたらと考えています。

💡 若い世代との交流

小中高生などの若い世代から当団体の活動に参加してもらい、桜や豊かな自然など上越市内に誇れる資源がたくさんあることを伝えていきたいです。

■上越市の強み（自慢できる点、満足している点など）は何だと思いますか。

☀️ 地域生活支援拠点が4か所設置された

市内には、障害のある人が住み慣れた地域で安心して暮らしていけるよう、相談、緊急時の受入・対応、体験の機会・場、専門的な人材の確保・養成、地域の体制づくりなどの機能を担う「地域生活支援拠点」が4か所設置されました。



（障害福祉のあり方について意見交換をしている様子）

☀️ 障害のある人の避難スペースが確保された

災害が起きた際に、一般の市民の方が利用する指定避難所の中に、支援が必要な障害のある人や高齢者が利用できる福祉避難スペースが確保されました。

🌳 障害のある人も安心して暮らせるまち

障害について市民一人一人が理解を深め、障害のある人もない人も心の負担がなく、安心して暮らせるまちになるとよいと思います。

■上越市の弱み（課題や不安な点）は何だと思いますか。

☁️ バリアフリー設備が不足している

小学校と連携し、パラスポーツ等のイベントを通じて、交流を行っていますが、多目的トイレが未設置の屋内外の施設がまだまだ多いと感じています。

障害のある人が安心して生活するため、バリアフリー設備を整えていく必要があると感じています。

🌳 助けを求めやすく、助け合えるまち

悩み事を我慢することなく、周りの人に助けを求めやすく、お互いにちょっとした心配りで助け合えるまちになるとよいと思います。

■上越市を魅力的なまちにするために必要な取組は何だと思いますか。

🕒 分野を超えた連携体制を構築する

学校卒業後も障害のある人がいきいきと地域社会で活躍できるよう、医療、教育、福祉などの分野を超え、地域全体で連携した支援ができればよいと考えています。行政には、現場に足を運び、他分野との横断的な調整や他自治体での成功事例などの情報共有に取り組んでいただきたいと考えています。

☁️ 組織はあるが、機能、連携面が不十分である

障害のある人を支援する組織体制は整っているものの、十分にその機能をいかせておらず、また、関係する医療、教育、福祉分野の団体との連携が不十分であると感じています。

🕒 啓発活動を推進する

引き続き、偏見をなくし、障害のある人が安心して暮らせる社会づくりを目指し、啓発活動に取り組んでいきたいと考えています。

行政においても、同様に子どもから大人まで多くの方に障害のある人への理解を深める取組を行っていただくことを期待しています。

☁️ 交通手段の確保において不安がある

障害のある人もその親も高齢化しており、さらに、地域も過疎化が進んでいることから、今後、生活する上で、交通手段の確保に不安があります。

■今後、上越市は、どんなまちになっていけばいいと思いますか。

■上越市の強み（自慢できる点、満足している点など）は何だと思いますか。

スポーツ施設が充実している

スポーツは身体を動かすこと、仲間と集まることができる「場」が必要です。上越市はジムリーナ・謙信公武道館の新築、総合体育館などの改修が進み、大型のスポーツ施設は充実していると思います。

広域合併したことで、一つの市の中で様々な種目・規模に応じた、多様性に富んだスポーツ環境を備えていることは強みです。

地域でスポーツを楽しんでいる

平成 22 年に「いきいきスポーツ都市宣言」をしたことは市内でスポーツを推進していく柱となっています。この宣言の下で開催されている「えちご・くびき野 100 km マラソン」は、「スポーツをする人、見る人、支える人」の観点で市内外の多くの人に参加している実績があり、地域でスポーツを楽しんでいる一例だと思います。

■上越市の弱み（課題や不安な点）は何だと思いますか。

生涯スポーツの受け皿が少ない

それぞれのライフスタイルに合わせて様々な種目やレベルで、自由にスポーツを楽しむ「生涯スポーツ」が注目されています。身近な地域でスポーツに親しめることが大切だと考えますが、市内において、生涯スポーツに取り組む団体が少ない地域もあり、受け皿としてはまだ不十分だと感じています。

■今後、上越市は、どんなまちになっていけばいいと思いますか。

スポーツで地域づくりしているまち

スポーツを通じて心も身体も健康になって、地域で活躍できる人が増えるとよいと思っています。スポーツで多世代が交流することは地域コミュニティづくりにつながります。子どもの頃から地域で仲間



（食事指導・生活習慣改善に関する研修会の様子）

とスポーツを楽しみ、大人になって指導者やスタッフとして関わり、地域の子どもの育てていく循環は、持続的な地域づくりの基礎にもなると考えます。

パラスポーツが盛んなまち

障害者と一緒にできるスポーツの普及が進めば、地域の様々な人が関わり、そのつながりから、地域の日常での困りごとを相談したり、解決に向けて協力したりすることができます。人々のふれあいや仲間づくり、支え合いの気持ちを生み出すためにもパラスポーツが盛んなまちになったらよいと思います。

■上越市を魅力的なまちにするために必要な取組は何だと思いますか。

スポーツの多面性をいかした取組

スポーツは教育や健康福祉分野だけのものではありません。試合や合宿の誘致は、商業者の収入になるなど経済面でもスポーツの活用が期待できます。地域づくりの観点から、あらゆる分野でスポーツをいかした取組が必要だと思います。

学校の部活動を契機とした連携

教員の働き方改革等を背景に、学校の部活動に地域の協力が求められています。スポーツが地域づくりの一翼を担うためにも、学校、スポーツ団体、家庭及び地域における活動を相互に連携する取組が必要だと思います。

■上越市の強み（自慢できる点、満足している点など）は何だと思いますか。

 教育にいかせる地域資源が豊富にある

四季の移ろいがはっきりしており、子どもたちが海・山・大地が生み出す自然の恵みを感じたり味わったりしながら、心身ともに健やかに成長できる環境を有しています。

また、市町村合併を経て、固有の歴史や風土をもつ各地区の結びつきが深まり、新しい人と人との交流が生まれたことで、豊かな教育資源を分かち合えるようになったことが強みだと思います。

■上越市の弱み（課題や不安な点）は何だと思いますか。

 コミュニティの維持が困難

人口減少・少子高齢化の進行に伴い、労働力不足、地域の支え合い機能の低下などが顕在化しています。中山間地域では、働き世代が地元を離れてしまうことで、担い手が不足し、従来のコミュニティの維持が困難になっていると感じています。

一方、市街地では、宅地開発により働き世代が比較的多く住んでいるものの、その地域に地縁がなく、地域内でのつながりが作りづらいという課題も発生しています。

 若者世代が地元に戻ってこない

進学や就職を機に市外へ出ていく若者世代が多いと思います。市内にも魅力ある進学先・就職先があるものの、選択肢がまだまだ少ないように感じます。

市外へ出ることは、新たな経験を積むことができる一方で、何かきっかけがないと市内に戻ってきづらいという面もあるのではないかと思います。

■今後、上越市は、どんなまちになっていけばいいと思いますか。



（左：「地域のお宝自慢」探検隊事業の発表会の様子）
（右：地元中学生との春日山城跡「土の一袋運動」の様子）

 子どもたちが地元へ愛着を感じるまち

各地域の特色をいかした活動や近隣の小・中学校区との交流などを通じて、子どもたちが地元へ愛着を感じられるまちになるとよいと思います。

 孤立することがなく、助け合えるまち

コミュニティ内で人が孤立することなく、住民・町内会・企業・学校・行政など地域に関わるみんなで助け合えるまちになると、人口減少・少子高齢化社会でも、安心して暮らしていけると思います。

■上越市を魅力的なまちにするために必要な取組は何だと思いますか。

 地域、学校、行政、企業の協働

今後は、地域の力がますます大切になってくると思います。まずは、地域課題を自分事として捉え、自分たちで地域をどうしたいのかを考えなければなりません。

そして、地域課題の解決には、そのような地域の主体的な動きに加え、学校や行政、企業との連携や協働が欠かせません。次代を担う世代へ引き継ぐために何ができるかを話し合い、できることから実践していくことが必要だと思います。

 子どもたちの人生がより豊かになるように

子どもの頃の体験や経験は、その後の人生に影響します。当協議会では、学校や地域と連携を図りながら、地域全体で未来を担う子どもたちの成長を支え、地域づくりに資する活動をこれからも続けていきたいと考えています。